最長発声持続時間｜MPT

A｜3回測定し、一息で続いた最長時間を記録

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

実施手順

1 安定した座位を基本とし、困難なら支持・背上げ角度を記録。楽な声の高さ・強さを説明し、見本を示す。

2 十分に息を吸い、「アー」を一息で可能な限り持続する。発声開始から終了までを秒で測る。

3 休息を挟み3回測定し、最長値を採用する。吸い直し・咳・笑い等の中断は記録し、無効な試行を混ぜない。

評価・記録

試行	持続時間（秒）	声・終了理由／有効性
1	_____	
2	_____	
3	_____	
最長値	_____ 秒	採用試行：____

秒数が短いことだけで声門閉鎖不全・誤嚥・排痰不能を確定しない。呼吸、声質、指示理解、努力の程度を併記する。

実施条件・症状／標準手順から変更したこと

出典・版の確認

菊谷ほか（2021）：測定法・3回の最長値 ↗

日本耳鼻咽喉科学会：用語集 ↗

測定手順・評価要素を出典に基づき独自に整理した記録用紙です。メーカー・学会の公式様式ではありません。

最長発声持続時間｜MPT

B｜追加の臨床記録 ― 評価本体の得点には加えません。

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

01 結果と生活場面をつなぐ

呼吸・発声のどこで途切れたかと、日常会話の句の長さや息切れを合わせて確認します。

本人が困っている具体的な場面／本人・家族の言葉

検査で観察した事実／生活で確かめること

02 支援を一つ試す

記入例（架空）：最長8秒。電話では文末が聞き取りにくい。短いまとまりで話す条件を試し、聞き返しと本人の負担を比べる。

目標と、試す支援・環境・介助条件

実施日・場面	本人の行動・結果	必要な援助・負担

03 再評価

前回：_____ 今回：_____ 条件の違い：_____

次回確認すること・担当者・予定日

追加観察はSTROKE LAB独自欄です。検査の得点と、生活で実際にできたことを分けて共有します。